ボーリング柱状図

調　査　名　30-210　地質調査業務（長船庁舎）

事業・工事名

ボーリングNo										

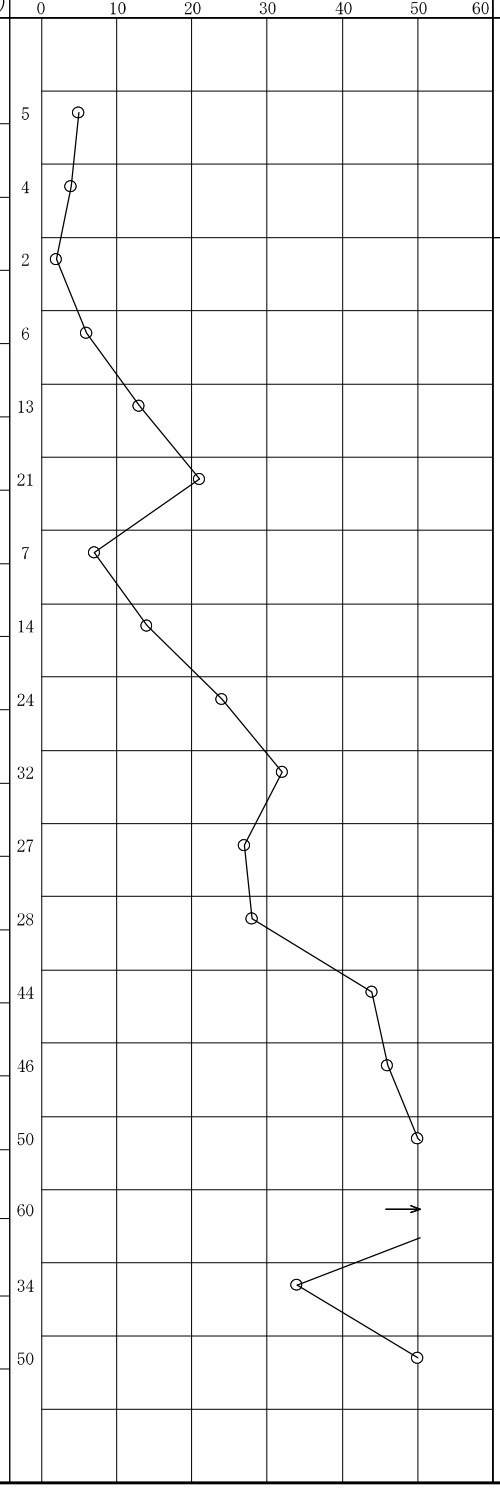
シートNo

ボーリング名	Ｂｏｒ．１	調査位置	岡山県瀬戸内市長船町土師　地内							北緯	34° 42’ 3″
発注機関	瀬戸内市総務部契約管財課			調査期間	平成 30年 12月 17日 ～ 30年 12月 19日					東経	134° 6’ 9″
調査業者名	株式会社アサヒ地質研究所 電話（086-223-7495）	主任技師	吉田　誠	現場代理人	西原　昌志	コア鑑定者	西原　昌志			ボーリング責任者	西原　昌志
孔口標高	GH=6.04m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平0° 0°	使用機種	試錐機	東邦D2-JS	ハンマー落下用具	半自動落下
総掘進長	18.45m								エンジン	ヤンマーNFD12	ポンプ	ヤンマーCP-50

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
	5.24	0.80	0.80		盛土・礫混じり砂	茶褐	中ぐらい		礫混じり砂である。細砂～粗砂主体である。 礫径5～50mm程度の亜角礫混じる。 土層は締まっている。	
1										
	3.34	1.90	2.70		砂混じりシルト質粘土	暗灰～茶褐		中位	全体にシルトを多く混入した細砂を含む粘性土である。粘性中位。含水中位。	
2										
3					シルト質砂	薄茶	緩い～中ぐらい		多くのシルト分含む微細砂～細砂主体である。含水やや多い。下部に従いシルト分少なくなる。	12/17 3.50
4										
5	0.54	2.80	5.50							
6	-0.86	1.40	6.90		砂礫	茶褐灰	中ぐらい		礫径5～50mm程度の亜円礫が主体である。マトリックスは細砂～粗砂である。含水小。	
7	-1.86	1.00	7.90		礫混じり砂	褐灰	緩い		礫径2～30mm程度の亜円礫を混入した細砂～粗砂である。緩い。含水大。	
8					砂礫	暗褐灰	中ぐらい		礫径5～50mm程度の亜角礫が主体である。マトリックスは細砂～粗砂である。GL-8.5～-10.0m間は全逸水である。含水比は中位である。	
9										
10										
11	-5.46	3.60	11.50							
12					シルト混じり砂礫	茶褐灰～茶褐	密な～非常に密な		礫径5～50mm程度の亜角礫が主体である。マトリックスは細砂～粗砂である。 GL-11.5m付近から色調が茶褐灰色に変化する。含水は小となり、礫質は硬質である。GL-14.5m付近で若干逸水する。GL-17.0m付近は若干のシルト分を含む。これ以深はシルト分をやや多く混入している。	
13										
14										
15										
16										
17										
18	-12.41	6.95	18.45							
19										

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15	2	1	2	5/30	5
1.45	15	5			
2.15	1	2	1	4/30	4
2.45					
3.15	1	1		2/30	2
3.45	15	15			
4.15	2	1	3	6/30	6
4.45	15	5			
5.15	3	3	7	13/30	13
5.45					
6.15	8	6	7	21/30	21
6.45					
7.15	1	2	4	7/30	7
7.45					
8.15	5	5	4	14/30	14
8.45					
9.15	9	7	8	24/30	24
9.45					
10.15	9	9	14	32/30	32
10.45					
11.15	8	9	10	27/30	27
11.45					
12.15	9	9	10	28/30	28
12.45					
13.15	11	12	21	44/30	44
13.45					
14.15	15	18	13	46/30	46
14.45					
15.15	14	17	19	50/30	50
15.45					
16.15	18	23	9/5	50/25	60
16.40					
17.15	12	11	11	34/30	34
17.45					
18.15	22	17	11	50/30	50
18.45					



原位置試験

深度 (m)	試験名および結果
3.00 3.00	孔内水平載荷試験 Em=3,274kN/m2

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
3.15 3.45	P-1-3	㊀	物理	12/17 12/18 12/19

ボーリング柱状図

調　査　名　30-210　地質調査業務（長船庁舎）

事業・工事名

ボーリングNo										

シートNo

ボーリング名	Ｂｏｒ．２－１	調査位置	瀬戸内市長船町土師　地内							北緯	34° 42’ 2″
発注機関	瀬戸内市総務部契約管財課			調査期間	平成 31年 1月 16日 ～ 31年 1月 21日					東経	134° 6’ 11″
調査業者名	株式会社　アサヒ地質研究所 電話（086-223-7495）	主任技師	吉田　誠	現場代理人	西原　昌志	コア鑑定者	西原　昌志			ボーリング責任者	西原　昌志
孔口標高	GH=6.12m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平0° 0°	使用機種	試錐機	東邦D2-JS	ハンマー落下用具	半自動落下
総掘進長	16.45m								エンジン	ヤンマーNFD13	ポンプ	動噴ポンプEP55

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
1	5.02	1.10	1.10		盛土・玉石混じり砂礫	黒灰～茶褐	緩い		GL-0.03mまでアスファルトである。それ以深は玉石混じり砂礫である。	
2					シルト質粘土	暗灰～茶褐		軟らかい	全体にシルトを多く混入した軟弱な粘土を主体とする。粘性大。含水中位。GL-2.0m付近から茶褐色に変わる。	
3										1/17 3.85
4	1.82	3.20	4.30							
5	0.92	0.90	5.20		砂質粘土	暗灰		軟らかい	均一な微細砂～細砂を多く混入した粘土である。含水大。	
6					砂礫	暗褐灰～茶褐灰～暗褐灰	中ぐらい		礫径5～50mm程度の亜円礫及び亜角礫が主体である。含水中位。マトリックスは細砂～粗砂でやや緩い。GL-6.0m付近から茶褐色に変わる。GL-8.5～9.6m間、礫径が小さくなり、茶褐灰色に変わり、逸水多くなる。GL-10.0～11.0m間、逸水多い。	
7										
8										
9										
10										
11	-5.38	6.30	11.50							
12					シルト混じり砂礫	茶褐～茶褐灰	密な～非常に密な		礫径5～50mm程度の亜角礫が主体である。含水大。マトリックスは粗砂が主体となり、やや密実な土層となる。GL-11.80m付近から砂分がやや多くなっている。。GL-11.80m付近から茶褐灰色に変わる。	
13										
14										
15										
16	-10.33	4.95	16.45							
17										
18										
19										

標準貫入試験

深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15	1	1	1	3/8	3
1.45					
2.15	1	1	2	4/35	3
2.50					
3.15	1	1	1	3/30	3
3.45					
4.15	1	1	1	3/36	3
4.51					
5.15	6	6	6	18/30	18
5.45					
6.15	11	8	7	26/30	26
6.45					
7.15	6	6	4	16/30	16
7.45					
8.15	3	3	5	11/30	11
8.45					
9.15	7	7	8	22/30	22
9.45					
10.15	6	7	8	21/30	21
10.45					
11.15	5	4	6	15/30	15
11.45					
12.15	11	7	11	29/30	29
12.45					
13.15	14	16	20	50/27	56
13.42					
14.05	50			50/10	150
14.15					
15.15	18	14	11	43/30	43
15.45					
16.15	14	14	16	44/30	44
16.45					

原位置試験

深度(m)	試験名および結果
2.00	孔内水平載荷試験 Em=2,306kN/m2
2.00	

試料採取

深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
4.30				
4.51	1-2-1-1	㊀	物理	1/16
				1/17
				1/18

ボーリング柱状図

調　査　名　30-210　地質調査業務（長船庁舎）

事業・工事名

ボーリングNo										

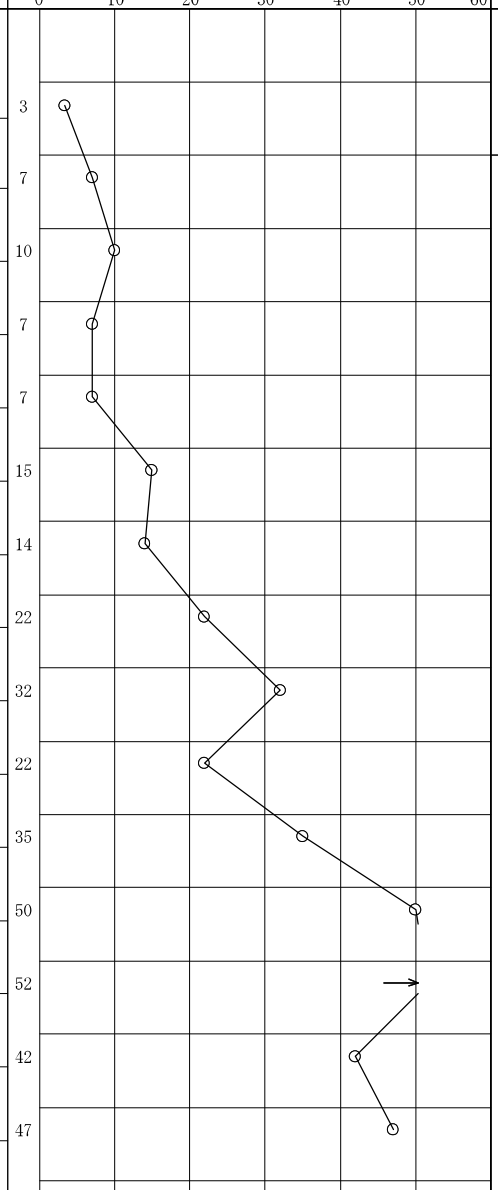
シートNo

ボーリング名	Ｂｏｒ．２－２	調査位置	瀬戸内市長船町土師　地内							北緯	３４°　４２’　１″
発注機関	瀬戸内市総務部契約管財課			調査期間	平成 31年 1月 10日 ～ 31年 1月 15日					東経	１３４°　６’　１３″
調査業者名	株式会社　アサヒ地質研究所 電話（０８６－２２３－７４９５）	主任技師	吉田　誠	現場代理人	西原　昌志	コア鑑定者	西原　昌志			ボーリング責任者	西原　昌志
孔口標高	GH=5.94m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平0° 0°	使用機種	試錐機	東邦Ｄ２－ＪＳ	ハンマー落下用具：半自動落下
総掘進長	15.45m								エンジン	ヤンマーＮＦＤ１３	ポンプ：動噴ポンプＥＰ５５

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
	5.24	0.70	0.70		盛土・砂礫	茶褐	緩い		GL-0.05m付近まで砂である。それ以深は砂礫である。GL-0.50m付近より粘土分を混入する。含水少ない。	
1										
2	3.64	1.60	2.30		砂混じりシルト質粘土	茶褐		軟らかい	粘性中位の軟弱な粘性土が主体である。全体にシルト文を多く含む。含水中位。若干の微細砂～細砂を混入している。	
3					礫混じり砂	茶褐灰	緩い		礫径5～30mm程度の亜円礫～亜角礫を若干混入した均一な細砂～中砂である。上部は含水小であるが、深くなるにつれて含水中位となる。相対密度は緩い。部分的に礫分の多い所を認める。	1/11 3.87
4										
5										
6	-0.56	4.20	6.50							
7					砂礫	褐灰	中ぐらい～密な		礫径5～50mm程度の亜円礫～亜角礫多く、マトリックスは中砂～粗砂である。含水大。全体に逸水を認め、GL-6.05～8.90m間、GL-10.20～10.70m間およびGL-11.00～11.80m間は特に多い	
8										
9										
10										
11										
12	-6.06	5.50	12.00							
13					シルト混じり砂礫	茶褐灰	密な～非常に密な		礫径5～50mm程度の亜円礫～亜角礫多く、マトリックスは粗砂である。含水大。シルト分を若干混入している。全体に逸水多い。	
14										
15	-9.51	3.45	15.45							
16										
17										
18										
19										

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15	1	1	2	4/35	3
1.50 / 2.15	1	2	4	7/30	7
2.45 / 3.15	3	3	4	10/30	10
3.45 / 4.15	2	2	3	7/30	7
4.45 / 5.15	2	2	3	7/30	7
5.45 / 6.15	4	4	7	15/30	15
6.45 / 7.15	6	5	3	14/30	14
7.45 / 8.15	8	6	8	22/30	22
8.45 / 9.15	8	13	11	32/30	32
9.45 / 10.15	13	5	4	22/30	22
10.45 / 11.15	12	11	12	35/30	35
11.45 / 12.15	16	14	20	50/30	50
12.45 / 13.15	10	20	20/9	50/29	52
13.44 / 14.15	16	12	14	42/30	42
14.45 / 15.15	13	15	19	47/30	47
15.45					



原位置試験

深度 (m)	試験名および結果
2.00 / 2.00	孔内水平載荷試験 Em=1,254kN/m2

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
4.15 / 4.45	1-2-2-1	㊀	物理	
				1/10
				1/11
				1/15

ボーリング柱状図

調　査　名　30-210　地質調査業務（長船庁舎）

事業・工事名

ボーリングNo										

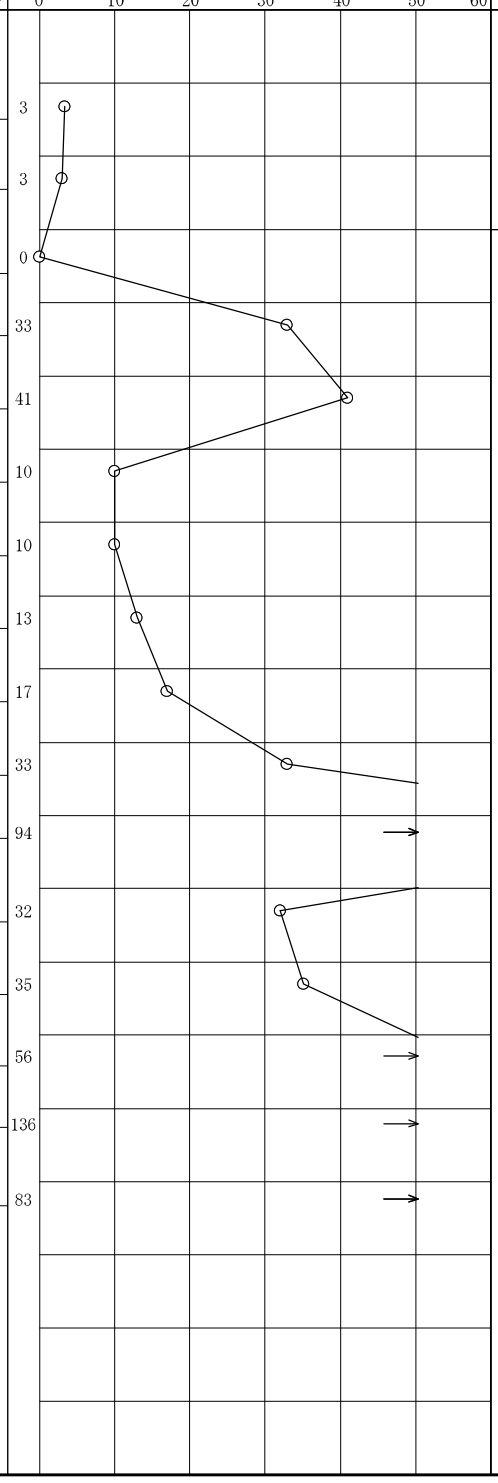
シートNo

ボーリング名	Ｂｏｒ．３	調査位置	瀬戸内市長船町土師　地内							北緯	34° 41’ 58″
発注機関	瀬戸内市総務部契約管財課			調査期間	平成 30年 12月 20日 ～ 30年 12月 27日					東経	134° 6’ 8″
調査業者名	株式会社　アサヒ地質研究所 電話（086-223-7495）	主任技師	吉田　誠	現場代理人	西原　昌志	コア鑑定者	西原　昌志			ボーリング責任者	西原　昌志
孔口標高	GH=5.88m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平0° 0°	使用機種	試錐機	東邦D2-JS	ハンマー落下用具：半自動落下
総掘進長	16.33m								エンジン	ヤンマーNFD13	ポンプ：動噴ポンプEP55

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
	5.08	0.80	0.80		盛土・砂礫	黒灰～茶褐	緩い		GL-0.05m付近まで砂である。それ以深は砂礫である。	
1 2	3.18	1.90	2.70		シルト質粘土	暗灰～茶褐		軟らかい	全体にシルト分を多く混入した軟弱な粘土である。含水中位。	
3	2.08	1.10	3.80		砂質粘土	茶褐		非常に軟らかい	微細砂～細砂を多く混入した軟弱な粘土である。含水大。下部にしたがい粘土分は少なくなる。	12/22 3.60
4 5	0.08	2.00	5.80		砂礫	茶褐	密な		礫径3～30mm程度の亜円礫～亜角礫が主体である。マトリックスは細砂～粗砂である。含水中位。全体にやや締まった土層である。	
6 7	-1.62	1.70	7.50		礫混じり砂	暗褐灰	中ぐらい		礫径2～30mm程度の亜円礫を混入した細砂～粗砂である。緩い土層である。含水大。逸水大。	
8 9 10 11 12	-6.62	5.00	12.50		砂礫	暗青灰	中ぐらい～密な～非常に密な		礫径5～50mm程度の亜円礫～亜角礫が主体である。マトリックスは細砂～粗砂である。含水中位。GL-8.4～-10.0m付近は全逸水である。	
	-7.02	0.40	12.90		有機物混じりシルト	茶褐		軟らかい	腐植物を多く混入したシルトである。木片を混入する。	
13 14 15 16	-10.45	3.43	16.33		シルト混じり砂礫	茶褐灰	密な～非常に密な		礫径5～50mm程度の亜円礫～亜角礫が主体である。マトリックスは細砂～粗砂である。含水中位。逸水を認める。GL-14m付近から逸水が少なくなり、密実な土層となる。	
17 18 19										

標準貫入試験

深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15	1	1	2／15	4／35	3
1.50 2.15	1	1	1	3／30	3
2.45 3.15	ハンマー自沈			0／45	0
3.60 4.15	13	10	10	33／30	33
4.45 5.15	15	11	15	41／30	41
5.45 6.15	6	3	1	10／30	10
6.45 7.15	1	2	7	10／30	10
7.45 8.15	5	4	4	13／30	13
8.45 9.15	6	5	6	17／30	17
9.45 10.15	11	12	10	33／30	33
10.45 11.15	27	23／6		50／16	94
11.31 12.15	9	14	9	32／30	32
12.45 13.15	11	11	12／9	34／29	35
13.44 14.15	14	18	18／7	50／27	56
14.42 15.15	44	6／1		50／11	136
15.26 16.15	18	32／8		50／18	83
16.33					



原位置試験

深度(m)	試験名および結果
3.00 3.00	孔内水平載荷試験 Em=2,650kN/m2

試料採取

深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
3.00				
3.45	P-3-3	⊖	物理	
6.15				12／21
6.45	P-3-6	⊖	物理	
				12／25
				12／26